

あなたの合格のために

製図試験.com マニュアル

ver.250624

製図試験.com



試験当日に合格する答案図面を描くことへ

製図試験 com の山口です。

この度は、数ある製図試験サイトの中から製図試験 com の合格マニュアルにたどりついていただき、心からお礼申し上げます。

スクールは 2025 年で 26 年目となり、製図試験業界でも最古参のひとつとなりました。

現状分析：新たなフェーズに突入している製図試験

現状の製図試験は、問題文に対してのアルナシ、建築法規、間違いのない数字表現という 3 点の減点でほぼ合否が決められてしまうように変貌しています。**主観的なプランへの判断ではなく、客観的に絶対値的なミスをし**ないことが、一級建築士の重要な素養と位置づけられています。したがって合格するためには、アルナシ・法規・数値が絶対条件であると考え、ノーマスで建築確認申請を提出するようなイメージが不可欠となっています。

合格から逆算することの重要性

「合格から逆算すること」というのは、近年、製図試験 com が最も意識している学習概念です。合格ラインは「アルナシ・法規・数字のミスをし

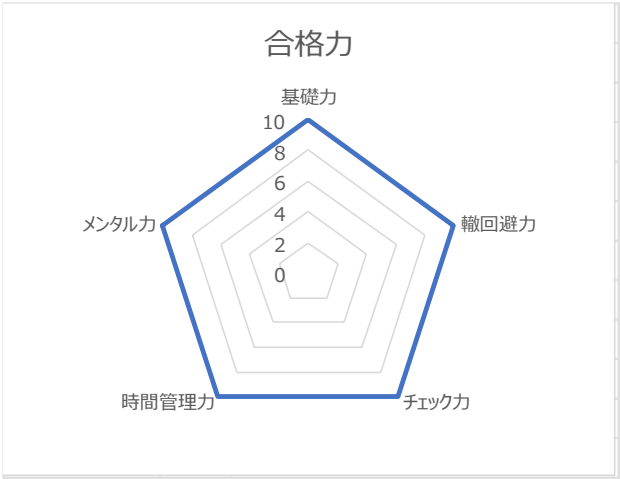
ない」ことです。さらに具体的にいうと**本試験当日に合格する答案図面を描くこと**、そのために、あなたにとって必要な学習量とスケジュールを逆算することが求められています。

合格の一点を見定めて、そこから逆算してあなた自身のプログラムを計画し、こなしていくことが最も重要な合格ノウハウになります。

新たに設定した合格力 = 5 つの力

従来より、問題文の**読解力**、それをエスキースする**計画力**、それを表現する**作図・作文力**の 3 つの力が求められていますが、「アルナシ・法規・数字」の比重が高いため、まとめて**基礎力**としました。

小さなミスをし**ないチェック力**とは別に、新たに失格項目を踏まない**轍回避力**、試験時間をコントロールし、ラスト 30 分改め 1 時間の修正時間を確保する**時間管理力**。試験当日、この 4 つの力を発揮できるために全体を支える**メンタル力**。そしてそのメンタル部分を日々鍛えていくこととし、この**5 つの力を合格力**として定義し直しています。



合格に必要な5つの力		
基礎力	10	読解・エスキース・作図・作文力
轍回避力	10	失格項目を絶対踏まない力
チェック力	10	小さなミスをし
時間管理力	10	6 時間半をコントロールする能力
メンタル力	10	逆境においても戦える能力

R07 本試験課題対応

合格するためのゴールラインは同じなのですが、受験経験や建築経験も同じではなく、学習環境も異なりますから、上記の逆算過程において、常に合格のためのトライを重ね、カリキュラムを進化させ、修正し、本年度プログラムを編成します。

前半戦は基礎としてコミュニティセンターのみを行ってきましたが、R07 本年度課題は基準階型となる可能性もあります。

当然全力でどこよりも早くかつ詳細に渡る本年度課題対応いたします。

製図試験 com とともに本年度での合格をめざしましょう。

製図試験.com 3つの特徴

1. どこにもない製図試験オンラインコース

製図試験.com がこだわっていること。それは資格学校の代替案ではなく、資格学校にはない 100%オンラインで学べるというスクールパッケージを作り上げていくことです。その特徴をご紹介します。

(1) R07 本年度課題に特化した後半戦カリキュラム

7月25日に発表させる予定の本年度課題に特化した後半戦カリキュラムを組みます。特に課題によって、特殊なエスキース手順を組み立てる必要があります、その全てを包含する内容とします。

(2) 独自ツール：本年度課題分析帖＋パーツ集

毎年度8月10日前後に発行する本年度課題分析帖では、本年度課題を余すことなく分析。単に技術的な内容だけではなく、なぜこの出題なのか、どういった方向性なのかまで踏み込んだ受験テキストです。全受験生の約5%がこのテキストを購入していただいておりますが、コース受講生には更に詳細に解説し、基礎力を固めていただけます。

(3) エスキースをステップで学べるカリキュラム

図面だけを添削しても、その過程の間違いを指摘しないと修正できません。製図試験.comでは発足当初からエスキース手順を確立し、また細分化して解説した「ステップで攻略するエスキース」(学芸出版社刊)があります。手順は年々バージョンアップしており、しかも本年度課題用手順を再構築して共有します。

(4) 自己添削チェックリスト＋チェック手順の確立

通信添削の新しい姿として、答案作成後、あなた自身で添削したチェックリストを同梱してもらう自己添削を昨年導入しています。受講生の皆さんが添削という視点から客観的に答案をみるができるチェック能力を身につけることが重要です。更に後半戦では、本年度課題に応じたチェック手順に習熟していただきます。

(5) 気軽に質問できてかつ即答するシステム

コミュニケーションツールとして zoom、LINE ライクな BAND、新たな動画データベースを準備しています。もちろん電話、メールでも気軽に質問していただけます。例えば、「二方向避難がわからない」→「どの部分がどうわからないのか今から zoom しましょうかー」こんな感じです。回答は可能な限り即日即答しています。

(6) すべての添削図面を共有

シークレットにして欲しい受講生を除くすべての図面とその添削図をメンバーズサイト上で共有します。全体の状況や他受講生のミスから学べる事が多く、合格するために必要不可欠な方法であると考えています。

(7) 必要にして十分な問題数

試験当日、ひとつの建物を計画するという試験において、極端な話、1 課題をじっくり深めればよいわけで、よく資格学校が○枚描かないと合格できないとは考えていません。問題数だけで合否が決まるなら多年度受験生の方が合格しているはず。ただ様々なパターンについて理解を深めていただきたいため、後半戦では 10 課題＋αとしています。

(8) アクティブラーニングを用いた講義

資格学校と異なり、製図試験.comでは、事前に問題を解いておき、解いた受講生同士がディスカッションしたり、プレゼンするところから講義やワークを行います。会議の前に資料を読んで議論から始める方法だとお考えください。

(9) フルカラーPDF 対応

問題文、解答例は紙ベースで郵送対応していますが、全てを PDF とした場合は PDF 割引があります。

(9) Gmail を必須とします。

本年度から google スプレッドシートの機能を利用するため、**Gmail の利用を必須**とします。

お手数ですが**試験用アカウントを Gmail で作成するか、現在の Gmail アドレスをご利用下さい。**

2.小回りの効く融通性ある組織

製図試験 com は、代表である私（山口達也）の私塾として、26 年にわたって運営しており、いい意味でも悪い意味でも小回りの効く融通性のある顔の見える組織です。問題文の折り・発送から解答例の作成、質問の受け答えまで、多くは私が絡んでいます。また添削する講師とも私が連携をとっています。

3.リーズナブルな価格構成

前述したように小さな組織ですから、営業を雇用しているわけもなく、大きな教室の家賃ありません。そういった経費を除いた分、内容にかかわらず、大手資格学校では実現できない価格構成となっています。

この資格にかけられる年額は、給与の 1-2 ヶ月分が上限だと思います。それ以上は掛ける試験ではない。ということで十分な学習アイテムと内容を最大化し、かつ費用を抑えてパッケージ化し、半期で 30 万円程度をひとつの目安としています。

ただし来期から職員を増強する予定があり値上げを検討しています。本年度必ず合格されることを願っています。

Cf : 重要な経験値を上げる方法

減点法で採点される製図試験で合格するためには、いつも最低点はキープできること、そのために弱点をなくす学習方法が求められています。しかも短期決戦でその力を身につけねばならないとした場合、短い時間で弱点を克服することが不可欠となります。

そのための重要なノウハウとして、「細分化」してくりかえし、手に覚えさせる学習方法をおすすめしています。

例えば、動線図を描くのが苦手、といいつつ、これまで動線図だけを集中的に練習したことがあるでしょうか。描けるようになるまで練習してきたでしょうか。エスキースのときに 1 回だけ描く、つまり課題数しか動線図を練習してこなかったのではないのでしょうか。

結局、本試験で動線図が甘かったために不合格になったとしても、なんとなくできなかったということで、また翌年、一生懸命、1 問 1 問を丁寧に時間をかけて解く、まではいいんですが、再び動線図が穴のままではそこから不合格への道が開いたままの学習をしていたということになっているわけです。

製図試験 com ではエスキースを 13 ステップに細分化し、それぞれを徹底的に理解し、考え、さらに自らの手法として固めていただくことをひとつの手段としています。弱点がわかるまで細分化し、それができるようになるまでトライする。この方法を身につけると、様々な目の問題点も、できるようなところまで細分化してこなししていくという手法として使うことができるようになります。これが製図試験の醍醐味だといつも思っています。

Cf : 弊社に向いている方・向いていない方

それぞれの資格学校にはそれぞれの特徴があります。製図試験 com は良くも悪くも私（山口達也）の私塾の域を超えていないため、スケジュールも内容も結構変更したりします。よくいえば柔軟な対応、悪くいえばいい加減、です。

加えて、自主性を重んじているため、質問やお問合せがない場合、ほぼこちらからのフォローはほぼありません。活用できる方はリーズナブルだと感じ、活用されない方はここでは全く何にもしてもらえないと感じるはずです。

短期間勝負ですので、そんな雰囲気や方法、それ以上に私と合わない方は、製図試験 com は利用しないほうがよいでしょう。また合うか合わないか不安な方は、一度面談されることをオススメします。

また資格学校とはエスキース方法が異なるため、「ステップで攻略するエスキース」をご覧になってから検討されたほうがよいと思います。

合格スケジュール

後半戦（本年本試験対応）→隔週（毎週）ペース

課題発表とともにオープン課題を公開します。その後、4 添削課題を隔週（+4 課題変形課題も隔週で毎週）出題します。またお盆前後に、本年度課題解説テキスト「課題分析帖 2025」、9 月初旬にパーツ集、基本問題集 3 課題を送ります。8 月末までの目標は、エスキース手順と添削手順の理解、3 時間作図、そしてプランニングパーツの構築という本年度用の基礎力を固めます。後半戦で合格を決めるためには、8 月末までに基本を完成させておくことが不可欠です。9 月からは、要点+弱点補強に特化し、特に轍回避力・チェック力・時間管理力・メンタル力に集中していきます。9 月最終週にシンクロ二模試を行い、その上で直前まとめを予定しています。試験対策としては、できるだけ平常心でどう臨めるのか、5 つの合格力をいかに発揮できるのかという点を共有してまいります。

製図試験後半戦攻略スケジュール ver.2025/06/24

項目\日程	7月	8月		9月		10月	備考
	基礎知識力	課題分析	問題対応	弱点	まとめ		
学科試験(7/27)	学科○					製図○	
課題発表(7/25)	○						
課題説明会キックオフ	○						オンラインで開催（7/29東京）
オンライン合格基礎講座							4月からスタートいつでも受講可能
オープン課題	○						無料公開の学習レベル判定課題
後半戦通信添削コース		1	2	3	4		コース1/3/4 あり。
条件変更課題		R	R	R	R		
基礎問題集3課題			○				基礎問題集(問題/解答のみ)
本年度パーツ集				○			本年度用パーツ集
シンクロ二模試					○		上記コースに含まれます。9月27-28日予定
直前講習会					○		模試当日夜に直前まとめを開催
他社分析課題					○		他社課題分析
セミナー（東京・大阪O/L）	○	○	○	○	○	○	計6回程度を予定
製図試験(10/12)						製図○	

□スケジュール詳細（ver.250624）オンライン・大阪は土曜日、東京は日曜日開催予定です。

Term	NO	カリキュラム	O/L大阪（土）	東京（日）	山口	全体予定・備考
後半戦	O/L	オープン課題（課題発表）	7月25日		O/L	本年度課題を当日配信
	O/L	課題解説ガイダンス	7月28日	7月29日	○	O/L・直接面談も含め開催
	1	第1課題トライ	8月2日	8月3日	*	当日振り返り予定
	☆	本年度課題分析帖発送	8月8日オンラインデータ		—	紙ベースは8月15日予定
	1R	夏期講習会	8月9-10日	8月11-12日	◎	1日目エスキース・2日目作図
	2	第2課題トライ	8月16日	8月17日	*	当日振り返り予定
	2R	第2課題講習	8月23日	8月24日	○	同課題の講習+演習
	☆	基本問題集発送	8月27日予定		—	3-4問の予定
	3	第3課題トライ	8月30日	8月31日	*	当日振り返り予定
	■	学科試験合格発表	9月4日		■	学科不合格者返金
	☆	本年度パーツ集発送	9月5日予定		—	20ページ程度
	3R	第3課題講習	9月6日	9月7日	○	同課題の講習+演習
	4	第4課題トライ	9月13日	9月14日	*	当日振り返り予定
	4R	第4課題講習	9月20日	9月21日	○	同課題の講習+演習
	5	後半戦シンクロ二模試	9月27日	9月28日	○	直前講習会あり
		直前まとめ	10月4日	10月5日	○	最終確認
	6	直前まとめ課題+まとめ資料	10月8日（水）		O/L	資料送付+解説
	■	製図試験	10月12日		■	当日に速報予定

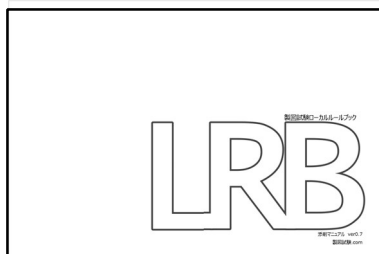
↑○山口参加、*自主ゼミ、O/L オンライン山口参加

後半戦は 4 課題 + 変形 4 課題 + 模試 + オープン課題 + 基本問題集 3 課題 + 他社分析課題
課題数が足りない方は別途個別対応として課題を用意します。上記は全て予定ですので、日程や内容を変更することもあります。

学習アイテム解説＋進め方

テキスト・教材

- ・無料メールマガジン + BAND サポート
- ・ステップで攻略するエスキース（学芸出版社刊）
- ・製図試験 comLRB 添削マニュアル（非売品）
- ・2025 年度課題分析帖＋パーツ集＋まとめ資料
- ・基本問題集（全 3 課題）
- ・用紙厚紙・エスキース用紙各 10 枚 計 20 枚



製図試験 com 基礎学習講座

標準パーツ集＋解説動画（30 本程度）

Udemy オンライン 3 講座（各 6 時間程度）＋別途 本年度課題用動画配信

課題構成

課題は一部を除き、問題文＋答案用紙＋エスキース用紙＋解答例＋解答例エスキース が一式のセットとなっています。

・全て PDF として弊社からの紙ベースの郵送が不要な方には PDF 割引があります。

後半戦：14 課題（オープン課題・4 課題（＋変形課題 4 課題）・模試・基本問題集 3・他社分析課題 他）

課題の講義：ZOOM（1 課題につき 1 時間程度、昨年実績 18 時間）

学習の進め方

課題発表後の後半戦は 12 週ありますが、8 月 31 日までを後半戦の基礎構築に充てています。

合格力の 5 つの力を身につけることを目標とします。習熟過程では、単に反復練習をできるまでやるという非常に単調でかつ過酷な練習が不可欠です。学習ポイントは、「**細分化して小さい成功を積み上げていくこと**」です。その延長線上に合格があります。

Cf：本来は楽しい建築計画

製図試験は劣化し制度疲労を起こしています。にもかかわらず、資格学校ではそんな試験に合わせて意味のないことをひたすら行う体力勝負のような学習方法を続けています。既に学習するモチベーションをキープすること自体が修行の様相を呈している状態です。

本来、2,000m² 級の基本計画を数多くこなせること自体、実は生涯に経験できないような貴重な体験。製図試験 com では少なくとも設計する楽しさを共有しつつ、学べる環境づくりをしたいと考えています。

コースと費用

製図試験 com コースと費用

製図試験 com では、既に十分合格するレベルにあり、費用を最小限にしたい方のために、教材提供＋全動画閲覧可能な教材コース（コース1）、それに添削を含めたオンライン添削コース（コース3）、スクーリングまで行う通学塾（コース4）があります。添削については、自己添削を導入し、弊社で細かく添削する方向から、よりスピーディに添削することを目標とすることとしました。申込みは12月10日から受け付けています。

2025年度製図試験comコース費用

ver.2506

コース	項目	基礎講座	教材	添削	通学	費用 税込	既添削生 費用 税込	備考
後半戦（課題発表後8月スタート）								
コース1教材コース						108,000	98,000	教材のみ添削なし
コース3 オンライン添削コース						210,000	190,000	教材・添削込
コース4 通学塾コース（東京・大阪）						310,000	280,000	通学＋自主ゼミ12回込
*コース1/3でPDF資料のみの場合さらに1万円引き								

- ・エスキースと自己添削の基本を押さえるために基礎講座を必須とし、コース費用に含めています。
本年度合格基礎講座を初めて申し込んだ方は、費用から38,000円を引いてお申し込み下さい。
- ・自学自習できる方は教材コースを、添削が必要な方はオンライン添削コースをご選択ください。
- ・東京・大阪では、スクーリングを行います。スクーリングご希望の方は通学塾コースをご選択ください。
- ・コース1及び3で紙ベースは不要でPDFのみでよい方は、後半戦1万円減額します。
- ・添削は後半戦10回分の費用となっています。（前半戦の分を後半戦には使えません。）
- ・追加添削はコース1で11,000円/課題、コース3で5000円/課題（税込）です。質問は常時受け付けています。
- ・学科不合格の際ですが、ほぼ2/3のプログラムが終了していますので、残金1/3をご返金清算いたしております。

Cf：自己添削の重要性

これまででも、自己チェックリストとか、採点チェックリストとかを行っている資格学校はあります。しかし、その判断基準や考え方を共有し、その理論的背景を共有して、一定の添削ができるような自己添削ができるようなカリキュラムは存在していませんでした。それはその資格学校のノウハウの全てであるからです。またそれを公開してしまうと、試験作成サイドが逆読みできるということから、チェックリスト基準を明らかにしていくことは禁忌であったといつてよいでしょう。しかし受講生一人一人が添削講師レベルまで添削できること。これが製図試験 com の究極の目標です。まだ実現していませんが、ローカルルールブック及び添削マニュアルで答案チェック方法はほぼ完成しています。

オンライン添削イメージ

オンライン添削は、昨年度の実績ベースから、新たに下記のような手順をイメージしています。

	製図試験com事務局		受講生	備考
① 問題送付	問題作成	送付・PDFアップ→	受取	送付とともにPDFアップ
② 問題トライ 自己添削			問題トライ・自己添削	1回目トライ
③ 答案送付	受取	←送付・PDFアップ	答案送付	郵送もしくはPDFアップアップ
④ 図面共有	添削前図面PDF共有 + zoomディスカッション			添削前所感
⑤ 課題解説	課題解説動画(zoom)			youtubeの場合もあり
⑥ 添削返却	添削	送付・PDFアップ→	受取	添削も郵送もしくはPDF
⑦ 答案共有	添削答案PDF共有 + zoomディスカッション			ポイント解説・議論
⑧ 個別指導	個別指導	←アプリzoom→	不明点整理	必要に応じて個別指導
⑨ まとめ講義	課題のまとめ解説動画(zoom)			課題の総まとめ
⑩ 質疑応答	応答	←アプリzoom→	不明点整理 自己開発ノート	質疑応答・個別対応

Cf : ミスを根絶する戦い

減点法で採点されているとされている製図試験。ミスはそのまま不合格へとつながってしまいます。

エスキースができないとか作図が遅い等ということから、完成させることを目標においた時点で不合格は確定したようなものです。合格するためには、一旦完成後、どれだけミスチェックができるのかにかかっているからです。

ミスをしない受験生はいません。必ずミスはするものです。

ですが、時間内にそのミスをリカバリーすればよく、ミスをどうやって根絶するのが合格を賭けた戦いとなります。

ミスには傾向性があり、本試験当日に行ってしまうミスのほとんどは、それまでの課題を解いているプロセスの中で発見できます。そのミスを発見した時が学習の勝負ポイントです。必ずミスの原因があるからです。

原因からチェックの方法を見直すこと。これが地道でかつ最短な合格への王道です。

製図試験.com ご紹介

名 称 : 製図試験 com (<https://seizushiken.com>) 運 営 : 有限会社 I.L.D.教育事業部

大阪事務局

〒554-0012

大阪市此花区西九条 2-7-8 田丸ビル 3 階

電話 06-7181-3701 FAX 廃止

メール : guchi@seizushiken.com

本年度大阪講習会場を別途借りる可能性あり。

東京講習会場

〒101-0042

東京都千代田区神田東松下町 33

COMS HOUSE 2F としまち研 会議室

指定金融機関

ユ) アイエルディ

Paypay 銀行 すずめ支店 普通 3175127

ゆうちょ銀行 ○九九店 当座 0222802

郵便振替 : 00970-2-222802

関連サイト

<https://facebook.com/seizushiken/> <https://x.com/seizushiken/>



代表 : 山口 達也 (ハンドルネーム : 曽根 徹)

1962 年 11 月 26 日生

大阪工業大学建築学科都市計画研究室

神戸大学環境計画学専攻、工学修士 (早川和男研究室)

阪神電鉄就職後、レンゾピアノビルディングワークショップに転職。

都市計画コンサルタント、経営コンサルタント、CM 会社等を経て、

有限会社 I.L.D.を設立。セルフビルディング中心に設計活動の傍ら、

2000 年に「学科製図.com」を設立。

25 年間で 3,000 名以上の一級建築士を輩出。

2015 年コンテンツをまとめなおし、「製図試験.com」を立ち上げ。

一級建築士設計製図試験だけに特化したしくみを開始。

業界初のオンライン添削・ZOOM ウェビナーを開始。

2023 年より阪南大学非常勤講師

2024 年地獄谷タリアセンブラスを開設

2025 年製図試験 comcast(podcast)スタート



このテキストは 2025/06/24 現在のものです。コンテンツの無断利用は固く禁じます。

Copyright ©製図試験.com All rights reserved.